

平成 27 年度

事業報告書

自：平成 27 年 4 月 1 日

至：平成 28 年 3 月 31 日

宮城県仙台市泉区上谷刈字向原 3 番地の 30

社会福祉法人 やまとみらい福祉会
理事長 早坂 了悦

平成27年度社会福祉法人やまとみらい福祉会

本部事業実績報告書

【事業報告】

平成27年度は、①業務連携体制と人材育成、②コンプライアンス、③ディスクロージャー、④インフォームド・コーポレーション、⑤地域での公益的取組み、⑥個人の尊重と個人情報保護を、基本方針として業務執行に努めた。

国の最重要課題でもあった待機児童問題の現状を踏まえ、当法人として、小規模保育事業所「やまとみらい八乙女保育園」を4月1日に開所し、2次募集からの入園ではあったが、0歳児4名、1歳児7名、2歳児5名、計16名の園児を迎えることができ、職員についても開園1か月前より採用を進め、充実した保育の提供を行うことができ、地域の待機児童解消に貢献することに努めることができた。

業務組織体制として、事務局長と施設長兼任体制から副施設長を施設長とし、法人事務局体制を充実させ、組織強化の課題抽出と前向きな改善に一步進むことができた。

抱優館八乙女は、新卒者5名の採用をおこない、また新たな取り組みとして障害者雇用を促進し、効率的な業務配分を行い、更なる職員の離職率減少、組織基盤の安定化に努めた。

やまとみらい八乙女保育園は、開所して1年を経過し、徐々に理念・方針の浸透、保育技術の向上が図られつつあり、より良い保育環境が整えられています。

また、地域での公益的取組みとして、認知症カフェの開催による地域交流促進のための場の提供、複数法人の連携による災害時要援助者支援のための訓練への参加、障害者や生活困窮者に対する就労訓練の場の提供などに取り組んだ。

また、障害者への就労に向けた移行支援事業所の準備、平成29年度より開始される介護予防・日常生活支援総合事業にむけた、地域住民のニーズにあった新たな事業の基盤づくりとして、居宅介護支援事業所の設置準備を行った。

【社会福祉法人やまとみらい福祉会運営事業】

平成27年度に実施した運営事業は以下のとおり。

(1) 第1種社会福祉事業

特別養護老人ホーム抱優館八乙女(長期入所事業)

(2) 第2種社会福祉事業

特別養護老人ホーム抱優館八乙女((介護予防)短期入所生活介護事業)

やまとみらい八乙女保育園(小規模保育事業)

特別養護老人ホーム抱優館八乙女事業実績報告書

[事業報告]

開設から4年を経過した特別養護老人ホーム抱優館八乙女は、法人理念を基にコンプライアンス、ディスクロージャー、アカウントビリティ、公益的取組みに加えて、介護業務の質を上げることとチャレンジを新たに年度の基本方針として業務執行に努めた。

特養の介護報酬2.7%切下げで、1,000～1,500万円の減収が予測される中、月次収支実績や稼働率を意識し、入居待機から新規入居の流れをスムーズにすることや適切な介護用品の在庫管理に努め、関係職種との連携を基礎に財務基盤は昨年度並みの安定を見せた。

また川崎市や仙台での介護に関する事件を受けて、虐待や接遇の研修を全職員で取組み、より良質な介護サービス提供に努め、職員の業務への自覚的取組み、質の向上を求めてきた。

障害者雇用の促進により、業務の効率的な分ち合いと助け合いの良い刺激、気風が醸成された結果、職員の離職が抑えられ、安定した業務継続が可能になっている。

管理業務体制は、施設長職と事務長職、課長職、係長をはじめとした内部統制システムの整備に努めてきた。組織基盤の継続的安定化は今後も大きな課題である。

入居者の安全確保は、感染症及び食中毒等について、厨房委託業者との連携、全職員参加の予防研修等により食中毒罹患者はゼロであった。その他感染症（インフルエンザ）は、幸い単発に留まった。来館者に対するうがい、手洗い、マスク着用の推進、職員の体調不良者に対する対応により、その他感染症も予防に努めることができた。しかし、一部職員の感染報告や受診の遅れがあったことから、今後も感染症対策への自覚的取組みを進めていきたい。

7月には、嘱託医の変更があったが入居者の健康管理体制上、スムーズな業務引き継ぎが行われ、支障なく移行を行うことができた。年度末には、認知症の入居の方へのより良い医療・介護のサービス提供を厚くするための精神科クリニック医師の協力医契約を行い、新年度から月2回指導を受けている。歯科医師との協力医契約や看取り体制の構築の準備も進めてきており、今後の課題である。

以下に利用実績を示す。

[入居者の要介護度別人数・年齢]

※人数表示は小数点以下第2位を切り捨て

	要介護1		2		3		4		5		平均	
	数	年齢	数	年齢	数	年齢	数	年齢	数	年齢	数	年齢
男			1	61.46	3.1	82.45	5.3	80.94	5.9	84.46	15.3	81.34
女	1	79.50	7.3	82.76	11.7	87.76	26.1	87.44	17.5	89.01	63.6	87.28
計	1	79.05	8.3	80.20	14.9	86.64	31.5	86.34	23.4	87.86	79.2	86.12

[特別養護老人ホーム抱優館八乙女利用実績]

全80室平均入居者 78.4人 稼働率 98.0%

月	平均入居者数	稼働率	月	平均入居者数	稼働率
4月	78.4人	98.0%	10月	78.5人	98.1%
5月	79.5人	99.4%	11月	78.3人	97.9%
6月	78.0人	97.5%	12月	78.9人	98.6%
7月	80.0人	100.0%	1月	78.5人	98.1%
8月	78.6人	98.3%	2月	76.3人	95.4%
9月	77.0人	96.3%	3月	78.3人	97.9%

(介護予防) 短期入所生活介護抱優館八乙女事業実績報告書

[事業報告]

27年度からの介護報酬の改定の影響から、介護保険施行後最も多く、とりわけ通所系サービスの事業所倒産が目立った。その影響からか、どのショートステイ事業所においても利用控えが目立つ中、抱優館八乙女も12月に至るまで、利用者数、稼働率とも停滞を余儀なくされた。加えて、利用者の退所に伴う利用の促進が効率的に行われなかったことも要因の一つと考えられるが、目標とした平均稼働率86%は僅かに下回る結果となった。

短期入所生活介護部門(ショートステイ)は、在宅の方が利用対象であり、地域のケアマネージャーなどとの連携が課題である。そのことを念頭に、「在宅支援」と位置付け、また年度初めの職員異動によって陣容を整え、抱優館八乙女が地域福祉の拠点として、地域包括ケアに果たす役割を担うこととしました。しかしながら生活支援課としての意識的組立てが不十分なまま推移したことは否めず、今後の大切な課題として重点化して取り組んでいきます。

こうした中、後半に伸びを見せたことは、職員が一体となって、ご利用の方々の信頼を得てきたことの証で、28年度の事業展望を明るくしており、それぞれの職員の成長を背景にレベルアップしたサービス提供体制を築きつつある、期待の部門と言えます。

[(介護予防) 短期入所生活介護抱優館八乙女利用実績]全20室

平均月延べ利用者数 520.5人 稼働率 85.4%

月	延べ利用者数	稼働率	月	延べ利用者数	稼働率
4月	540人	90.0%	10月	518人	83.5%
5月	515人	83.1%	11月	487人	81.2%
6月	524人	87.3%	12月	533人	86.0%
7月	471人	76.0%	1月	534人	86.1%
8月	512人	82.6%	2月	543人	93.6%
9月	506人	84.3%	3月	564人	91.0%

[サービス提供実施状況]

- ① 住まいづくり：前年度を踏襲し、各ユニットにおける生活環境の適正化に努めた。27年度は、これまでのふれあい福祉作業による清掃に加え、ユニット内においては、特に障害者雇用及び生活困窮者の就労支援で受け入れたボランティアによって、ユニット職員の業務量の軽減を図ることで厚みのあるケア体制作りを進めることができた。
- ② 安全・安心な美味しい食の提供：産直米・野菜と日清医療食品の協力、管理栄養士のミールラウンド及び嗜好調査、季節の料理提供等、安全で美味しい食の提供に努めた。
- ③ チームづくり
2度の職員面談やユニットリーダーとの個別面談、諸会議などを積み重ね、組織体制の見直し、良い介護を課題に組織的業務課題の抽出をした結果、ユニット、フロア間の情報伝達や記録方法のデータ化等を図ることにより、業務全体の改善を図ることができた。

委員会活動報告

【リスクマネジメント委員会】

- ・ 構成メンバー 施設長、生活支援課長、看護師、機能訓練指導員、各係長、各フロア介護職員事務員
- ・ 開催日 毎月第2火曜日 午後1時
- ・ 目的 施設サービスを利用する方々の安全を最優先に考え、全職員が正しい情報を把握し、介護事故の未然防止に努める事を目的とする。
- ・ 目標と活動結果
 1. 介護事故、ひやりはっと報告書の活用と様式の検討
 - ⇒ これまでの介護事故、ひやりはっと報告書の様式をPCシステムへ移行し、介護記録入力システムと連動して活用できるよう平成27年11月より変更した。そのため、システム閲覧による情報の共有がしやすくなった。運用の仕方に課題はあるが、活用方法については浸透してきている。また、昨年度、ひやりはっとの状況を手間なく、タイムリーに情報共有するために運用をはじめた「ホーユーレポート」については、十分に活用されていない状況が続いており、有効に活用できるよう継続して啓発が必要である。
 2. 介護事故の集計分析・事件事例の検討
 - ⇒ 上記同様に介護事故、ひやりはっとの状況をPCシステムへ入力管理する事により、統計が得やすくなった。介護事故発生の傾向について把握しやすくなるはなったが、それを基に対策を講じ、職員全体へ周知していく活動が不十分であり、今後の課題である。
 3. 施設内研修開催による職員啓発と意識の向上
 - ⇒ 以下の内容で施設内研修を実施し、講義、演習を通して活動できた。

① ～介護施設の事故予防とトラブル防止の取り組み～ 講師：(株)オンワード・マエノ 前野文男氏 開催日：平成27年6月24日（水） / 平成27年6月29日（月） 参加者：合計61名
② 事件事例・危険予知訓練（KYT）についてグループワーク 開催日：平成27年12月24日（木） / 平成28年1月25日（月） 参加者：合計55名
- ・ 反省と課題 年間を通して、施設全体の介護事故の発生件数は前年度に比べて減少したが、件数至上主義にならないように事故の内容や傾向を把握し、今後も施設全体で介護事故発生防止のための活動が必要である。今年度は、PCシステムを有効に活用して、報告書の作成や事故内容の統計、情報の共有が行えるようになったが、事故発生における原因の特定、再発防止策の検討については、十分な検証

がなされていない事例が多く見受けられた。「何故に何故を重ねる」視点で検証する事、また、介護事故を未然に防止する視点で職員それぞれが気づき、それを発信、共有し、予防策を講じていく習慣づくりが今後の最大の課題である。施設内研修においても、そのような視点を含ませた内容で実施できたが、継続して企画し、職員の意識の向上につながるような研修が実施できれば良いと考える。

【感染症予防対策委員会】

- ・ 構成メンバー 施設長、生活支援課長、看護師、各フロア介護職員
- ・ 開催日 奇数月の第3木曜日 午後1時
- ・ 活動目標 ①入居者、職員の日常生活の中で、環境整備を徹底し感染症の予防対策を行う。
②感染症発生時において、迅速に対応し感染症を最小限に留める。
- ・ 活動報告 5月…食中毒について施設内研修（2回開催）
排泄ゴミ、浴室清掃についての話し合い。
7月…白癬菌についての勉強会開催
9月…インフルエンザ、ノロウィルスのマニュアル作成
11月…インフルエンザ、ノロウィルス予防の施設内研修（2回開催）
1月～3月…インフルエンザ、ノロウィルスの発生時の対応と状況把握
- ・ 反省と課題 上半期は職員も衛生面で気を配り、御家族様からの持ち込みに関しても貼り紙や職員の方で管理するなどして食中毒もなく経過できた。
下半期はインフルエンザ、ノロウィルスに対する予防対策が主であった。前年度の反省から嘔吐物処理セットの中にフットカバーと使い捨てゴーグルを追加した。また、マスクの定着率を上げる為、各フロアのエレベータ前にマスクとハンドミストを設置し感染予防に努めた。
施設内研修を元に職員が感染症に対する危機管理を持ち、各自体調管理を行っていた。しかし、一部の職員の報告の遅れがあり徹底されていなかった。感染拡大には至らなかったが報告の遅れは重大な過失に値するので、来年度は体調不良時の報告、連絡、相談がスムーズにできるよう意識して取り組むことが課題だと考えます。

【身体拘束・虐待廃止委員会】

- ・ 構成メンバー 施設長、生活支援課長、介護支援課係長
機能訓練指導員、看護師、各ユニット介護職員
- ・ 開催日 毎月第4火曜日 午後1時
- ・ 活動報告 ・身体拘束・虐待廃止に関しての知識を深められるように、ユニット会議を利用し、委員会メンバーより委員会報告とともに身体拘束・虐待廃止に関しての勉強会の実施し知識を深められた。
・「適切なケア10か条」より、ユニットで目標を決め業務に努めその評価を委

員会で報告しさらなる改善に努める事が出来、各職員が日々の業務に生かす事が出来た。

・年2回施設内研修の実施。県内で発生した虐待事件事例に当施設での現状を踏まえながらグループ討議を行い多くの意見や今後の対応方法等を検討することが出来た。

・年度末ではあったが、無記名で虐待の芽チェックリストのアンケート記入を実施。各職員が日々の声掛けをはじめ支援方法を振り返る良い機会となり、介護職員としての自覚をきちんと持てるようになってきているのが理解できた。ただし、アンケートを基に今後の委員会としての活動へ活かしきれない部分もあり来年度の課題としていきたい。

・反省と課題

・研修やアンケートにて10か条を意識し振り返る様になったが職員間での話し方、呼び方がまだ徹底しておらずフロア間に話しをおろせていない所もあるが利用者様への話し方など良くなった所もあり来年もさらに良くなるよう次年度に引き継ぎたい。

・施設での拘束・虐待がなくて良かったが細かく見て行くと個々にグレーな対応や声かけがある事が10か条を通して知る事ができた。身体拘束や虐待については各々が学習し何が虐待にあたるのか等、考える事が重要だと思う。本年度は何が虐待にあたるのか指標ができわかりやすくなったと思う。来年度も引き続き同様の指標を元に明確にして行く事が重要。

・アンケート実践し去年より踏み込んで行けたのが良かった。来年にどういかしていくのか引き継いで行きたい。またグレーな対応もあったが改善もみられユニットの雰囲気が変わった。

・職員間での慣れの部分を気付いていたが改善していけていなく今後は職員同士で話しあえるようにしていく。

・去年より身体拘束対に関して知識が増えアンケート実践により初心に戻り、気付ける事も多かった。来年度、アンケート実践の回数を増やし継続をして頂きたい。委員会を離れても気をつけてケアをできるようにしていきたい。

・自分をふくめまだまだな部分もあり委員会が主となり広めていかないといけない。いいケアをしても言葉遣いが悪いとダメになる。いいコンセプトがあるのに活かしていない。次年度はそれを活かしていきたい。虐待の多い1年であった。自施設であつたらどう対応するのかをもっと踏み込めていけたらと思う。期間を決めてやってきたが何があっても虐待や拘束はいけない事であり個人がどう気づき実践して行くか大事である。

【栄養管理委員会】

・構成メンバー

施設長、生活相談員、看護師、各ユニット介護職員、管理栄養士
(委託側) 日清医療食品エリアマネージャー、管理栄養士、調理員

・開催日

毎月第1月曜日 午後1時

- ・年間目標 給食業務に係る問題点などを協議し、入居者の栄養管理や給食内容の充実を図る。
- ・活動報告
 - ・毎月の行事食実施（納涼祭、敬老会含む）
 - ・食形態、食事内容の検討、改善・入居者の食事の実食、検討会
 - ・6月 食中毒勉強会・11月 入居者対象の嗜好調査実施
- ・反省と課題
 - ・年間計画に従って行事食を毎月提供できた点、入居者やユニットでの問題点をオンタイムで検討、改善できた点、委員が実食し食形態や栄養補助食品の変更がスムーズにできた点は評価すべきであり、今年度積極的に取り組めた結果である。
 - ・来年度の課題として、ユニット間で未だ能力の差があり美味しく調理、配膳ができていないユニットもある為、今後委員を中心に基礎的な調理、配膳方法を学び、より美味しく食べて頂く工夫が必要である。
 - ・また、各委員が給食の一端を担っているという自覚が低く受動的に委員会に参加しているため、来年度は役割を持って積極的に給食に携わっていただけるよう活動したい。

【排泄・褥瘡予防委員会】

- ・構成メンバー 施設長、生活支援課長、看護師、各フロア委員、管理栄養士
- ・開催日 奇数月の第1水曜日 午後1時
- ・年間目標
 - ・排泄の基本的な知識と技術を習得し、入居者様の快適な生活の質の向上を図る。
- ・活動報告
 - ・4月 今年度の活動計画立案
 - ・7月 ネスレ日本（株）による排便ケア研修
 - ・10月 便秘と下痢の勉強会、オムツ在庫管理
 - ・1月 研修会の反省、今後の勉強会検討
 - ・3月 メーカーによるラウンド検討
- ・反省と課題
 - ・オムツの在庫管理の徹底不足。
 - ・委員としての役割を把握できていなかった。
 - ・研修の機会があり学びを深められた。
 - ・来年度は排泄の他褥瘡についても勉強したい。

来年度は勉強会実施等医務室主体で委員会を進め、基本的な知識、技術の習得に努め委員が中心となりユニットでの取り組みに生かす。

【行事企画・広報委員会】

- ・構成メンバー 施設長、生活相談員、総務係長、管理栄養士、各ユニット介護職員、事務員
- ・開催日 毎月第1月曜日 午後1時

- ・活動報告
 - ・本年度より設けた行事毎の実行委員制度は、行事实施にあたり前年度まで特定の職員のみ携わっていた計画、公演者との事前打合せ、準備・片付け、当日責任者等委員全員が携わる事ができた為、一連の流れの把握ができ各自責任とやる気を持ち効率的に行う事ができた。また前年度に比べ委員人数が半減したが、分担、協力体制によりカバーできた。
 - ・入居者様と職員がカラオケを披露する新たな取り組みをできた。
 - ・近隣の学校等との新たな関わりを持つ事ができた。
 - ・改善等について随時検討し、次回実施時に試行行う事で回数を重ねる毎に円滑に行う事ができた。
 - ・誘導にあたり各ユニット PHS での連携をとっていたが、時間決めし各ユニットで時間に合わせた準備を行う事で混乱を防ぎよりスムーズな移動が行えた。
 - ・また、誘導隊と整列隊の分担制にする事で移動時間を短縮し、入居者様の待ち時間の負担軽減を図れ、大きなミスや事故もなく実施できた。
 - ・年2回の広報誌発行にあたり、写真や映像等の取扱いの事前確認行い、掲載等の一覧表を各ユニットへ配布することで、掲載に考慮した撮影ができた。
- ・反省と課題
 - ・予定を立てる際に、入居者様の生活リズムに配慮した時間帯や実施時間調整をもっと密に行えれば良かった。
 - ・ユニット職員への周知不足があった。
 - ・入居者様の移動と厨房昼食配膳時間が重なり、スムーズなエレベータ利用ができなかった。
 - ・開催中、入居者様のトイレ移動等時にスムーズに対応できるような配列の工夫ができなかった。

【安全衛生委員会】

- ・構成メンバー 施設長、総務課長、各フロア介護職員、看護師、事務員
- ・開催日 毎月第3水曜日 午後1時
- ・年間目標 労働災害0を目指す。
- ・活動内容

昨年度の実施内容をベースとしているが、主な議題で1時間充てるのではなく、資料を参照しながら勉強会方式とし15～30分程度にまとめている。個々の知識の向上を目指した。

空いた時間を利用して労働環境の整備、向上、危険箇所の確認等活動した。この活動の中で、各委員の自発的な行動や提案もあり、積極的な委員会活動になった。

主な議題以外の実施活動

 - ・リフト浴使用上の注意
 - ・空気清浄機清掃メンテナンス
 - ・浴室内設備メンテナンス

- ・ゴミ捨て場所の改善・ゴミ出しの注意
- ・夏季、冬季空調温度設定
- ・エアコン空調メンテナンス 等

経過年数が経つほど施設設備は老朽化が進むので日常の手入れが必要であったが、これまでのところそうした活動ができずにいた。個々で行ったケースもあったが、施設全体となると膨大でやりきれないことから、委員会で清掃メンテナンスについて説明した。そして委員からユニットの職員全体へと広げ、各ユニットで清掃方法の習得と実施を目的とした。

今年度は衛生委員会から安全衛生委員会へと変更し、それに伴い労働環境や職員の健康管理、作業安全について等、調査審議事項の視点を広げていこうと考えていた。そうした意識によって昨年度よりも今年度は会議室から出て、現場での活動が増えたと思われる。

また4S巡回を1年続けて行ってきた。毎月佐藤がユニット職員1名と順番で同行して行い、同行者を変えることでそれぞれの気づきをもって巡回することができた。次年度からは、別のやり方で臨む。

・反省と課題

資料（健康管理、食生活等）を介護職に見合ったものにしてはどうか。

腰痛予防について、専門家の意見やマッサージを実施してみてもどうか。

交通安全強化月間前に車両通勤者に注意喚起を行う。

湿度やエアコンの温度設定はその時期の前に確認し、設定するようにする。

目標として労働災害0を目指すとしていた。目標自体は達成しているように見えているが、送迎事故、通勤災害にあった方やインフルエンザにかかった方、腰痛を我慢している方がいた。大きな事故には至らなかったが、危険な場面は多々あったはずである。いろいろなところに潜在的なリスクがあることを改めて知ることができた。

目標に対して何か意識できたのか、もう一度考えて取り組む必要があったと思われる。委員会を有効なものにするため適宜必要な活動、議題、声掛けをしていきたい。

【防災対策委員会】

- ・構成メンバー 施設長（防火管理者）、総務係長、各フロア介護職員
- ・開催日 5月13日、8月5日、11月4日、2月3日 計4回開催
- ・活動報告
 - ・年2回の消防・防災訓練の実施（6月24日、12月15日）
 - 6月24日は泉消防署より2名立会いにてマニュアル訓練を実施。
 - 指摘事項として、マニュアルを整備しすぎた結果、マニュアル通りの動きとなってしまう、本番に近い想定での訓練を、今後していただきたい旨のお話しあり。
 - 12月15日実施時に、火元等はフローチャートには記載せず、火元を探したうえで訓練を実施。委員からは、前回の反省を踏まえ、避難済の居室にはバスタオル等で目印などをし、応援者が来ても避難完了と一目でわかるよう工夫した。

・11月5日 泉区老協災害訓練への参加

泉区内の老協会員施設が集まり、災害時の無線連絡網訓練、搬送応援訓練を実施

・反省と課題

・防災に関する意識が全職員とおして低いため、消防訓練を実施してもただやればいいという状況となっている。夜間帯は介護職員のみでの館内を管理することとなり、火災時などのルート確認や連絡（報告先）など理解していない職員が多い状況であり、委員構成、開催日数の見直しを行い、毎月開催し、全職員へ防災意識を植え付けていく必要がある。

・また今年度実施した仙台市老協泉支部内での合同訓練や、仙台市との福祉避難所設置協定など、地域との連携を向けた動きが活発化してきているので、専門職を交え、地域住民との交流（町内会の防災訓練の参加、炊き出し訓練実施に伴う呼びかけ）を今後の課題としていきたい。

各種外部研修・行政等主催研修参加状況

開催日	名称	参加者	主催者
5/11	平成27年度 総会	施設長	老人福祉施設協議会
5/12	平成27年度 東北ブロック老人福祉施設大会	施設長 総務係長	仙台市老人福祉施設協議会
5/13	新卒採用のポイント講座	事務員	宮城県
5/21	フィンランドにおける高齢者とケアの現状	施設長	宮城大学
6/1～ 7/31	平成27年度 仙台市社会福祉法人施設職員研修事業 新任職員研修	事務員	仙台市社会福祉協議会
6/3	平成27年度 第1回認知症介護指導者研修	生活支援課長	認知症介護研究研修仙台センター
6/16	平成27年度 指定（地域密着型）介護老人福祉施設 集団指導	地域相談支援係長 総務係長 在宅支援係長	仙台市
6/17	H27年度 「新任職員研修」	新卒3名	宮城県社会福祉協議会
6/19	接遇・コミュニケーション向上研修	事務員（新卒）	仙台市社会福祉協議会
6/24	第1回 仙台市老協 施設長会議	施設長 総務係長	社会福祉法人白百合会
6/24	平成27年度 宮城県社会福祉法人 経営者協議会総会	総務課長	宮城県社会福祉法人経営者協議会
7/9	仙台市認知症介護実践研修	介護支援第二係長	仙台市健康福祉事業財団
7/10	平成27年度 社会福祉施設開設・経営実務セミナー	総務課長	独立行政法人福祉医療機構

7/14	平成 27 年度 泉区管内給食施設従事者研修会	管理栄養士	仙台市保健所
7/22	今おさえるべきマイナンバー理解のカギ	総務係長	スクラムマネジメント
7/27	メンタルヘルス・雇用トラブル対策セミナー	事務員	A I U 損害保険株式会社
7/29	H27 年度 「新任職員研修」	新卒 2 名	宮城県社会福祉協議会
8/4	ジョブカード制度普及セミナー	事務員 2 名	宮城県商工会議所
8/7	精神障害のある方の雇用	施設長 総務課長	障がい者就労支援センター
8/21	平成 27 年度 宮城県社会福祉施設 事務担当職員研修	事務員	宮城県社会福祉協議会
8/21	第 2 回 老人福祉セミナー	生活支援課長	仙台市老人福祉施設協議会
8/21	介護スキルアップ研修 (第 4 回)	介護員	(公財) 仙台市健康福祉事業団介護研修室
8/26	平成 27 年度 無料個別相談会・第 2 回研修会	事務員	経営者協議会
8/28	介護スキルアップ研修 (第 5 回)	介護員	(公財) 仙台市健康福祉事業団介護研修室
9/3	平成 27 年度 施設長研修会	施設長	仙台市老人福祉施設協議会
9/8	東北ブロック老人福祉施設研修会	施設長 介護員 4 名	老人福祉施設協議会
9/10	福祉サービスの苦情解決に関する研修会	介護支援第一係長	宮城県社会福祉協議会
9/10	平成 27 年度 ケアマネジメント研修会	介護支援第一係長	仙台市
9/16	平成 27 年度 第 2 回合同研修会「介護保険制度改正：地域包括ケアシステム」	施設長	仙台市老人福祉施設協議会
9/29	障害者雇用促進セミナー	施設長	チャレンジドジャパン
10/1	介護スキルアップ研修 (第 7 回)	介護員	(公財) 仙台市健康福祉事業団介護研修室
10/1	第 19 回 リスクマネジメントセミナー	生活支援課長	オンワードマエノ
10/7	平成 27 年度 認知症対応型サービス事業開設者研修	事務局長	宮城県介護研修センター
10/9	平成 27 年度 宮城県社会福祉施設職員 コミュニケーション技術・対人援助技術研修 第 1 班	介護員	宮城県社会福祉協議会
10/16	障害者雇用促進セミナー	事務員	チャレンジドジャパン

10/19	平成 27 年度 仙台市社会福祉法人・施設職員研修事業 メンタルヘルス研修	施設長	仙台市社会福祉協議会
10/28	平成 27 年度 認知症介護セミナー	施設長 生活支援課長	認知症介護研究研修仙台センター
10/29	SEICT 感染症対策セミナー	看護師	仙台医療センター
10/29	平成 27 年度 宮城県社会福祉施設職員 コミュニケーション技術・対人援助技術研修 第 2 班	介護員	宮城県社会福祉協議会
11/4	社会福祉施設協議会連合会	施設長 事務長 総務課長	全国社会福祉協議会
11/4	平成 27 年度 宮城県社会福祉施設職員 コミュニケーション技術・対人援助技術研修 第 3 班	生活支援課長	宮城県社会福祉協議会
11/12	認知症を理解する	介護員	(公財) 仙台市健康福祉事業団介護研修室
11/12	障害者雇用促進セミナー	総務課長	チャレンジドジャパン
11/16	年金委員・健康保険委員合同研修会	事務員	協会けんぽ
11/19	スクラムマネジメント経営者セミナー	事務局長 事務員	スクラムマネジメント
11/19	平成 27 年度 仙台市認知症介護実践者研修	介護支援第一係長	仙台市健康福祉事業財団
11/19	『新しい総合事業の移行戦略』	総務課長	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング
11/26	第 54 回 宮城県精神保健福祉大会	事務員	公益財団法人宮城県精神保健福祉協会
12/2	東北ブロック・ユニットケア研究会 2015	介護員 3 名	日本ユニットケア推進センター
12/4	介護スキルアップ研修 (第 9 回)	機能訓練指導員	(公財) 仙台市健康福祉事業団介護研修室
12/9	第 2 回仙台市老施協泉支部災害対策会議	施設長	仙台市老人福祉施設協議会
12/9	「障害者差別禁止指針」及び「合理的配慮指針」説明会	施設長 事務員	仙台市公共職業安定所
12/9	平成 27 年度 宮城県高齢者権利擁護推進研修会「適切ケアと不適切ケア」	介護員 3 名	宮城福祉オンブズネットエール
12/7	認知症セミナー	生活支援課長	仙台市医師会
12/20	社会福祉法人制度改革セミナー	事務長	宮城県社会福祉法人経

		総務課長 総務係長	営者協議会
2/17	2015年 会計実務講座	総務係長	中央福祉学院
2/6	精神障害者の雇用と就業支援を学ぶセミナー	事務員	宮城県経済商工観光部 雇用対策課長
1/22	宮城県精神保健福祉士会権利擁護研究会	施設長	宮城県精神保健福祉士 会
2/9	第20回 リスクマネジメントセミナー	施設長	オンワードマエノ
1/20	平成27年度 給食施設事例発表会	管理栄養士	仙台市保健所
2/4	ヘルスケアセミナー社会福祉法人制度の改正について	事務員	リコー
2/17	第17回 地域医療ネットワークカンファレンスフルリール会	看護師	仙台オープン病院
1/28	平成27年度 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業実践報告会	総務課長	宮城県保健福祉部長寿 社会政策課
2/2	平成27年度 宮城県喀痰吸引等研修事業	介護員	宮城県社会福祉協議会
2/24	平成27年度 第3回研修「生活相談員研修」	在宅支援係長	東北コミュニケーション 研究所
3/7	平成27年度 仙台市認知症対応型サービス事業所管理者研修	介護支援第一 係長	仙台市
3/10	ストレスチェック制度解説セミナー	事務員2名	東京海上ホールディング ス
3/15	平成27年度 第2回施設長研修会	施設長	仙台市老人福祉施設協 議会

やまとみらい八乙女保育園事業実績報告書

【事業報告】

昨年4月1日開園当初は0歳児1名・1歳児6名・2歳児3名の計10名からのスタートとなった。その後、見学者への個別対応・リーフレット作成・ホームページ整備や近隣関係施設へのリーフレット配布等に取り組み、0歳児3名・1歳児1名・2歳児2名が途中入園し6月からは計16名での運営となり安定してきた。

園児の安全確保について、食中毒等は調理担当者との連携・予防研修等で食中毒者はなし、年間通して感染症・インフルエンザは数名出たものの衛生管理の徹底と体調不良児に対する即時対応により感染の拡大はなし、保育中の事故は転倒や擦過傷等の報告があったものの職員間での事故報告や安全管理の徹底により病院への通院や救急搬送などの必要な大きな事故は起こっていない。

平成27年度卒園児は5名、2名が認可保育所・3名が幼稚園へスムーズに入ることが出来ている。しかしながら卒園後の受け入れを含んだ連携が進められない現状があり、今後の大きな課題として取り組む必要がある。

【やまとみらい八乙女保育園利用実績】 定員 19名

月	入園児数			退園児数			合計
	0歳児	1歳児	2歳児	0歳児	1歳児	2歳児	
4月	2	7	3	0	0	0	12名
5月	1	0	1	0	0	0	14名
6月	1	0	1	0	0	0	16名
7月～3月	入園児・退園児共に変動なし						

【各種会議開催状況】

保育園全体の連携や各職種連携のため次の会議を開催し、業務の改善を図った。

会議名	議題	開催日	構成メンバー
運営会議	現状報告、情報連絡、課題提起・検討、収支報告	4/16、6/12、6/25、7/23、8/27、9/28、10/29、11/27、	事務局長、総務課長、総務係長、園長
職員会議	保育・給食状況報告、行事反省、次月予定、課題提起・検討、情報・意識の共有	4/10、4/13、5/1、6/1、7/1、8/3、9/1、10/1、11/2、12/1、1/4、2/1、3/1	園長、保育士、保育従事者、栄養士、調理員
調理ミーティング	現状報告、情報連絡、課題提起・検討	5/14、6/16、7/28、8/24、9/24、10/30、11/24、12/18、1/27	園長、栄養士、調理員 (抱・管理栄養士)
パート会議	現状報告、情報連絡、課題提起・検討	10/29、11/27、12/25、1/29、2/26	園長、パート保育士

【各種外部研修・行政主催研修参加状況】

保育のスキルアップや情報交換、小規模保育制度の理解を深めるため、以下の研修等に参加した。

開催日	名称	参加者	主催者
6/8	平成 27 年度 小規模保育事業・事業所内保育事業 施設長研修	園長	仙台市子供未来局
6/17	平成 27 年度 地域型保育事業施設 保育従事者研修	保育士	仙台市子供未来局
6/25	平成 27 年度 小規模保育事業・事業所内保育事業 栄養士研修	栄養士	仙台市子供未来局
6/29	平成 27 年度 地域型保育事業施設保育従事者研修（無資格者）	保育従事者 （無資格者）	仙台市子供未来局
8/24	平成 27 年度 地域型保育事業施設保育従事者研修（有資格者）	保育従事者 （有資格者）	仙台市子供未来局
8/27	平成 27 年度 保育所職員初任者研修	保育士初任者	一般社団法人宮城県保育協議会 宮城県保育士・保育所支援センター
9/1	第 15 回保育従事者並びに保育所嘱託医研修会	保育士	仙台市医師会
9/16	平成 27 年度 地域型保育事業施設保育従事者研修（有資格者）	保育士 （有資格者）	仙台市子供未来局
9/18	平成 27 年度 保育所中堅職員研修	保育士	一般社団法人宮城県保育協議会 宮城県保育士・保育所支援センター
10/22	平成 27 年度 地域型保育事業施設保育従事者研修（無資格者）	保育士 （無資格者）	仙台市子供未来局
10/29	平成 27 年度 ノロウイルス感染予防研修会	保育士	泉区役所
10/30	平成 27 年度 カウンセリング特別夜間講座	保育士	仙台市子供未来局
11/4	平成 27 年度 保育所施設長研修	園長	一般社団法人宮城県保育協議会 宮城県保育士・保育所支援センター
11/10	平成 27 年度 保育所歯科保健研修会	保育士	宮城県歯科医師会
11/13	せんだい子育て支援者ネットワーク交流会 2015	園長	仙台市子供未来局
11/20	平成 27 年度 第 1 回子育て支援関係機関連絡会	保育士	仙台市子供未来局
1/13	平成 27 年度 第 2 回子育て支援関係機関連絡会	保育士	泉区役所
1/13	平成 27 年度 メンタルヘルスセミナー	園長	宮城県子ども総合センター
2/4	平成 27 年度 保育所施設長研修	園長	一般社団法人宮城県保育協議会 宮城県保育士・保育所支援センター